

はじめに

看護学は、大学では4年間、専門学校では3年間で履修し、看護師国家試験を受験する。医師等を除くほかの医療職をめざす学生においても、ほぼ同様である。日進月歩の医学、医療の世界においては、必要とされる情報量は指数関数的に増加している。こうした情報を学ぶには、この履修期間ではあまりにも短すぎることは学生のみならず、教員も痛切に自覚している。この困難な状況を打開するための1つの手段は、学ぶべきことを合理的かつ正確に学修していくことである。そのためには、良質な教科書が必須である。この「はじめの一步」シリーズは、正にそのために企画されたものである。

看護学、医学のみならず、高等教育において教授される学問が、難しくないわけがない。しかし、その難しいことを理解してはじめて先へ進むことができる。最初が理解できなければ、その先へ進むことは不可能であり、また誤って理解すると迷路のなかに入ってしまう。本書では、難しいことをやさしく教えることを目標としている。あたかも目の前に患者がいるかのように病態を丁寧に説明し、一方で難しい医学用語の解説を増やし、病名一覧表なども用意した。やさしく教えることによって、ぜひとも病態・疾患学を理解し、学修していただきたいのである。

基礎医学を学修した後ははじまる分野が、臨床医学である。すなわち、人間の正常な状態を学んだ後、患者を対象とした学問に進む。医療専門職へ進む道を歩みはじめるのである。その第一歩として学ぶものが、この病態・疾患学である。病態・疾患学とは病気によって引き起こされた人体の構造と機能の変化における法則性(病態学)を修得し、それによって病気の原因を明らかにし治療、看護する学問(疾患学)である。本書は、病態学と疾患学が有機的に関連するよう編集し、また構成されている。病態・疾患学を正確に、そして合理的に学修することは、この後に続く専門科目を学修するうえで、絶対に欠くべからざることである。

本書の執筆者は、いずれも優秀な臨床医にして、かつ医学者である。臨床医は、看護師をはじめとする多くの医療職とチームを組んで医療に当たる。各執筆者は、患者に良質な医療を提供するためには、医療職としてどのような資質をもつべきか、そのためには、どのような学修をこれまでに、そしてこれからも行うべきかについて、豊富な経験に基づいた見識をもっており、それをもとに本書を執筆している。さらに、医学者として十分な学識に基づいて、難しいことをいかに平易に教えるかの術をもっている。

本書によって、学生諸君が病態・疾患学をわがものにされんことを願って止まない。

終わりに、本書の編集にご尽力いただいた羊土社編集部の方々、なかでも、関家麻奈未氏、伊藤駿氏のご努力に深甚の謝意を表したい。

2017年10月

林 洋